



未来のために、今を大切に

羽幌町長

森

淳

新年明けましておめでとうございます。希望に満ちた令和8年の輝かしい

新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、日頃より町行政に對し、多大なるご理解とご協力をいただきておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

本町の令和7年を振り返りますと、町内の農業者では21年ぶりとなる宮中祭祀「新嘗祭」の献穀者に築別の有野直倫さんが選定され、秋には献穀米の一部を子どもたちにも食べていただきたいとのご厚意により寄贈を受け、町内の小中学校の給食で提供したところであります。

また、スポーツでは、中学軟式野球の地域クラブ「羽幌フエニックスミドル」が中体連全道大会において見事準優勝し、全国大会へ出場したほか、空手の全国大会では羽幌高校2年生の高橋鳳晴さんが3位に入賞しました。さらに、サンセット

ビーチでは、道北各地のダンスチームから300名を超えるダンサーが参加し、「道北ダンスフェス」が初めて開催されました。

一方、文化面では、羽幌中学校3年生の神永みそらさんが、全国規模の絵画展「第31回馬の絵作品展」において文部科学大臣賞を受賞し、昨年に続き2年連続での最高賞の受賞となりました。

町行政では、天売複合施設の建設及び子ども発達支援センター建替に向けた工事がスタートしました。

DX（デジタルトランスフォーメーション）化については、窓口等での証明書交付手数料などの支払いにキャッシュレス決済を追加したほか、粗大ごみや水道開閉栓の申込みをオンラインフォームからも行えるようにし、さらに町内循環バス「ほつと号」の現在地をリアルタイムで確認できるバスロケーションサービスを導入しました。今後におきましても、

住民の利便性向上と業務の効率化を進めてまいります。

さて、本年は羽幌町にとつて、大きな節目の年となります。

人口減少や社会情勢の変化が進む中、将来にわたり町民皆様の暮らしを守り続けるため、現状に即した判断を行う必要があると考へ、これまでの計画を見直し、令和8年度から向こう10年間を見据えた公共施設マネジメント計画の改定を進めてまいりました。

その結果、これまで予定しておりました

公共施設の新築計画につきましても、スクラップ・アンド・ビルトの考え方を

基本とし、規模を大幅に縮小するなど計画を全面的に見直すことといたしましたが、これは決して後ろ向きな判断ではなく、限られた財源をより町民の

皆様の暮らしに役立てるための選択であります。

これからの中づくりでは、建物を

整えること以上に、産業の振興、子育て支援、高齢者福祉、医療や生活支援など、人の暮らしを支える分野に重点を置き、町民の皆様が「この町に住み続けてよかつた」「次の世代にも引き継ぎたい」と感じていただける羽幌町を目指し、未来への希望につながるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

また、変化の時代だからこそ、原点に立ち返り、町民の皆様一人ひとりの声に耳を傾けながら、一步一歩着実に歩みを進めることができだと考えております。

本年は、その新たなまちづくりのスタートの年であります。

結びに、町民の皆様のご健康とご多幸、そして羽幌町のさらなる発展を心より願い、新年のご挨拶とさせていただきます。